

令和元年度食のみやことっとり

キラリと光る食育推進活動 知事表彰

表彰事例集

第8回



とっとりの食育

県内では、数多くの団体が様々な視点で食育活動に自主的に取り組んでいます。地域の特性を活かし意欲的に取り組まれている活動を表彰しましたので紹介します。

菜園で育む「人と共に食を喜びあうところ」

智頭町立ちづ保育園

活動の概要

平成29年4月に町内に2園あった保育園が統合し、ちづ保育園が開園した。ちづ保育園の近くには、小学校・中学校・高校があり、園外保育で出かけたり交流もしやすい環境になった。智頭農林高校とは、以前から藍染交流、保育交流を行っていたが、ちづ保育園開園を機に、菜園活動での交流が始まった。お兄さん、お姉さんが育てた苗と一緒に植え付け、草取り、水やり等育て方も教わりながら育てた野菜を収穫する喜びは格別。毎日収穫する野菜を、「今日は何本とれたかな」と数えながら、「育てる喜び」「収穫する喜び」「食べる喜び」そして「人との関わりを大切にする喜び」を育む取組となっている。



工夫したこと

どんな野菜を育てるかは、園児の年齢と発達にあわせて決めた。(さつまいも、ミニトマト、ピーマン、人参、大根など)

高校生は、摘花作業や支柱添えなどの作業のほか、日頃から作物の成長を気にし、毎月園を覗いてくれる。その間に子どもたちも、草抜きや水やりなどを行いながら、野菜の成長を楽しみに待っている。その甲斐もあり、たくさんの立派な野菜が実った。園児は高校生と一緒に育てた野菜を数えながら収穫し、収穫した数のシールを貼り、他の園児にも知らせることで、たくさん育った野菜の収穫を喜び合っている。

また、数への関心も高まり、年長児は就学に向けて良い刺激となっている。その日に収穫した野菜は、その日の給食やおやつに出して、新鮮なおいしさを味わっている。



活動の成果

高校生と園児が交流の始まりと終わりに元気いっぱいにあいさつを交す姿は微笑ましいものがある。高校生への感謝と、野菜をいただくことへの感謝の気持ち、そして、美味しい給食を作ってくれる調理員への感謝、様々な「ありがとう!のこころ」を育む機会をこの交流は与えてくれる。

「〇〇本とれたで。おいしいの作ってよ」と園児が給食室まで野菜を届けて、調理員と対話する姿に、たくましさを感じる。野菜が苦手だった子ども、野菜が好きになり、偏食を克服した園児も増えた。保育園だよりを通じて交流の様子や野菜を食べている様子を保護者に届けると、驚きとともに、感謝の声が寄せられる。

受賞のポイント

- ・園児と高校生の異世代交流により、双方にとって人との関わり大切さ等多くのことを学ぶ機会となっている。
- ・菜園活動を通して、収穫する喜びや土・植物への親しみを実感するとともに、思いやりや感謝の心を育むことができ、偏食の克服にもつながっている。
- ・本活動の仲介役となった地域おこし協力隊員を中心に、地域づくり活動としても波及することが期待できる。

《団体の概要》 所在地／八頭郡智頭町大字智頭1152番地1 連絡先／0858-75-0144